

植栽設計において犯しやすい間違いとその回避方法 TOP10



Photo courtesy of Adam Woodruff

ランドスケープ・アーキテクチャーは、複数分野の深い知識が求められる総合的な主題である。景観の歴史、都市計画および地域計画、都市設計、建築、環境科学、植栽設計...どの主題も重要であり、ランドスケープアーキテクチャーにおいていずれも無視されるべきではない。しかしながら、すべての分野で等しく良好であろうとするのはほとんど不可能だということを我々は知っている。通常できることは2つの主題、おそらくはせいぜい3つの主題で良好であることくらいだ。

もしあなたが最高の状態を生み出そうとする時に扱える主題を選べるのならば、あなたは上記のうちのどれを選択するだろうか？

植栽設計はどうだろう？ というのは、つまり植栽設計こそがランドスケープアーキテクチャーのプロジェクトにおけるバックボーンではないだろうかと思うからだ。植栽設計こそが、建築分野におけるすべての専門家とランドスケープアーキテクトとを明確に区別することができる唯一の専門的スキルではないだろうか。

もし植栽設計に頼って高品質なランドスケーププロジェクトを設計しようとするのならば、一般的によく犯しやすい10の間違いを研究することによって、間違いわずかに高品質な設計を達成する方法を見出すことができる。

※注) 以下に10の間違いの原因を上げる。見出しはそれぞれ「間違い」なので、基本的にその逆のことをすれば間違いを犯すことを回避できる。

1. 個別アプローチの欠如



まず、設計者が最初に犯しやすい最も重大な過ちについて紹介することから、この話を始めることにする。我々は……各プロジェクトやクライアントに個別のアプローチをすることを忘れがちである。

専門家は早晩、経験とは利益をもたらすだけでなく障害ももたらすものであると知ることになる。無意識であろうとそうでなかろうと、専門家が大規模なバックグラウンドを持つことは、時に作業を単調で機械的な方法で行うことと結びつきやすい。

強力な形状や湾曲、あるいは破線といった植栽設計に使用するスタイルは、作品を通して表現すると決めたコンセプトやアイデアに完全に依存して変わる。例えば、素晴らしく名状しがたいポルシェパビリオンの植栽設計と、ロンドン湿地センターにあるロイヤル・バンク・オブ・カナダの自然植栽設計とのデザインの差を覚えておいて欲しい。一つとして同じクライアントやプロジェクトはいない。それゆえ設計者は個別に、それも意識的に、クライアントやプロジェクト各々に対してアプローチをする姿勢を忘れないようにすべきである。

ではどのように行ったらいいのだろうか？ 端的に言って自身をあまりにも誇示しすぎないことが大事だ。すべてを知っている人間などこの世のどこにも存在しない。つまり人は私の知る限りにおいては、プロジェクトのたびに自分も学んでいくのである。乗り越えるべき目標とするバーをより高く設定すること—これが仕事を最大限に活用する方法であ

り、その設定は自分に対する評価とも密接につながっている—それが個別のアプローチというものである。

2. 設計のユニバーサル原則を無視してしまう

ユニティ（調和）・バランス・便宜・色・スケール（規模）・プロポーション（比率）・対称性と非対称性・多様性・リズム・類似性やコントラスト・支配（強調）……どれも、植栽設計においてよく知られている設計原則であるが、しばしば無視される。



信じられないほどの緑の壁のディスプレイ; credit: Patrick Blanc

しかしながら、植栽設計の分野には世界的に有名な作家が何人もいる。彼らは自分の作品からインスピレーションを受ける他のランドスケープアーキテクトによって、賞賛されたり模倣されたりする人びとである。オーストラリアン・ガーデンの大胆な植栽設計を背負って立つポール・トンプソン、素晴らしい垂直庭園で有名なトーマス・ライナーやパトリック・ブランの作品について思い起こしてみしてほしい。彼らは、ユニバーサルデザインの原則を適用しているだろうか？ どう思うだろうか。

どうすれば原則を無視しないようにできるのだろうか。それには最終的な結果を考える必要がある。植栽設計においてそうなりたいと願う理想の設計者を特定し、彼の作品を研究

することである。守るべき原則のリストを作成し、追加したり削除したりして、自分に最適なものを見つけるまでこれを繰り返すことだ。

3. スケールとプロポーションを見誤ってしまう

プロのランドスケープアーキテクトならば、大規模な公共公園と小さなプライベートガーデンの両方に、同じ植物リストを使用してはならないことを知っている。創り出そうとしている景観領域の大きさは常に考慮されなければならない。創りあげた領域の知覚が困難であるならば、それは失敗したことを意味する。失敗は植物の不規則な生長を招いたり、隣接する建物に損害を与えたりする可能性もある。これでは、平和で安全な景観を創るのではなく危険な領域を創り出していることになる。



街を歩く: Photo courtesy of T.R.O.P: terrains+open space

どのようにしたらスケールの重要性を尊重することができるのだろうか？ それには可視化することである。植栽が設計プロセスの最初から時間の経過とともに正しく変化し、生長する方法を考えなければならない。

4. 植物の特性を無視してしまう

時間と共に植物が育つのにまかせるという場合、その植物の知識を増強していくこともまた重要であるが、植物の特性を無視してしまうことがある。使いたい植物はどのくらいの丈に生長するのか、いつ花が咲くのか、秋には何色になるのか、果実はどうだろうか、アレルギーの原因となるのだろうか？ ……高品質で健康的かつ審美的にも満足させることのできる植栽設計をクライアントに届けたいのならば、設計者はこれらの質問のすべてに答えられなければならない。



ミックスボーダーは素晴らしい効果を生み出す; credit: Nigell Dunnett

では、使用したい植物の特性を知らないことで起こる失敗を防ぐ方法はあるのだろうか？それは観察することである。園芸植物のナーサリーを訪問するたびにこれを行う。言うなればナーサリーとは様々な段階まで育っているいろいろな植物を調べることのできる場所なのだから。

5. 地域植生をまったく用いない

クライアントの中には大面積で伝統的な芝生を要求する人々がいるが、このような芝生を維持するのに消費するリソースと時間について、今日では広く議論されている。つまり大面積の芝生を計画することは、生態系や革新的なアプローチからほど遠くなる。

それゆえ、クライアントと無駄な話をする前に、我々は自分自身に対してその植物を使用する理由を思い出させるべきである。植物はその場の微気候に適したものを、野生生物と生物多様性に対して益になるものを、シンプルに視覚と感覚の喜びに適したものを選んでいっているのではなかったか？ 次の機会にもし芝生を設計することを求められるならば、これらの質問について考えてみて欲しい。これが、将来的に地域の植生をまったく用いないという間違いを避けるための方法である。

6. 先のことを考えた計画を行っていない

大局を考えないのは、おそらく設計者が持っている最大の欠陥の一つである。長期的に見て、そのプロジェクトの影響はどのようなものになるのか？ 樹木をリサイクルすることも考えているだろうか？ その植物の選択は生物多様性を刺激するのだろうか？ 未来志向的な思考を持っているだろうか？ これらの答えは常にあなたの目の前にある。

それでも、この記事を読んでいるのはどうしてなのかと問うのならば、これはあなた自身の教育水準を保たなければならないということだ。こうして絶え間なく学んでいる限り、あなたは進歩を遂げることができる。これが大局を考える方法である。そして仕事の各部分でそれを行えば、先を考えないことで発生する間違いを犯さなくてすむのである。

7. どのプロジェクトでも同じ植生リストを使ってしまう

すでに述べたように、経験豊富な設計者はそうした自分のバックグラウンドゆえの罠に、ストレートにはまるのがよくある。確かに自分の知っている植物のみを選択して仕事とすることははるかに簡単なことであるが、しかしこのような行為は、遅かれ早かれあなたの評判を台無しにしてしまうだろう。ならば、それを回避する方法はあるのだろうか？

それを避けるには、自分自身を啓発し続けることである。植栽設計は多様性が無限の分野であるという事実を受け入れることである。昨日学んだものよりももっと魅力的で、もっと奇妙で、もっとエキゾチックな植物が常にあるのだ。それを見逃してはいけない。



Photo courtesy of Adam Woodruff

8. 季節を無視してしまう

設計者は、その植栽の最も輝かしい姿—満開の花や密に混んだ葉で覆われている姿などを想像する傾向がある。問題は、計画にあるすべての植物が毎年一斉に花を咲かせるわけではないということ、ほとんどの植物は各々完全に異なる生育期間を持っている。ここがあなたのプロフェッショナリズムの見せ所なのだ。どのように植物を組み合わせれば、公園や庭園が、季節のまっただ中であるいは季節が終わった後でさえ、人目を惹くほどに魅力的なものとなるのかを考える。そうしてこそ、季節を無視した間違いを繰り返す他のランドスケープアーキテクトの中で、己を目立たせることができるのだ。

春の花、夏の果実、秋の紅葉、冬の常緑樹と微妙な樹皮の美しさ……。こうしたことを忘れないようにしたい。ではどうしたらそうできるのか？ 各季節のダイアグラム（推移）を作成するのである。これが、一年のすべての時を満足させるような優れた植物の選択を行うための唯一確実な方法である。

9. 継続的な植栽のメンテナンスについて考えていない

ランドスケープアーキテクトや都市計画家、設計者であることは、プロジェクトがどのように建設され維持されるのかについて考えることから、あなたを解放してくれるものではない。その良い例が、ある樹木の幹の周囲に植えられた低木の集団に見受けられる。このような場合、低木を剪定する際に（適切に指示をされていれば）、最初の場所で樹木の枝にダメージを与える可能性はない。低木が沢山あれば地面の覆われていない部分よりも良く見えるだろう。



Image credit: Billy Goodnick |CAH FB

メンテナンスの間違いを避けるためにはどのようにすべきだろうか？ プロジェクトを建設し維持する方法について指示を与える立場であるならば、あなたは大きな責任を負うことを覚えておくべきである。したがって各設計プロセスを終える度に、植物のメンテナンスについても考慮する時間が必要である。

10. 「適切な場所に適切な植物を植える」ということをしなかった

間違った植物を選ぶことはありがちな過ちである。気候条件上の要件は、植物の生育に不可欠なもので、日向・日影、湿度、乾燥度などは、植物の状態と外観の両方に著しく影響を及ぼすものである。植物の選択を間違えたら大きな害をこうむることになるが、気候要

件を完全に満たしている場合は最良の結果が得られ、最も健康的で印象的に植物が生長する。

間違った植物を選ばないためにはどうしたらよいのだろうか？ それには地域の条件を調査することである。すべての状況に対してそれぞれに適切な植物の選択肢があるのだ。

最後に。ここでは、植栽設計をする際におちいりやすい最も一般的な間違いを 10 件挙げて、その回避方法について説明してきた。あなたの意見はどうだろうか？ これら 10 件すべてから我々を救うことのできるユニバーサルな方法はあるのだろうか？ もしあるとすればそれはどのようなものであるか、教えて欲しい。